

## あばき出された「6.12事件」デッチ上げ 11.19津田沼電車区現場検証

十月二十七日開かれた動労「本部」革マル反動分子がデッチ上げた「6.12暴力事件」の一回公判廷で、動労千葉顧問弁護団より申請し認められた裁判官による現場検証が、十一月十九日津田沼電車区構内で実施された。この狙いは、動労「本部」革マル反動分子と、警察・検察庁一体となった「事件」のデッチ上げ性と作文を暴き、現場の状況、距離感を裁判官に知らせるのが目的であった。



(踏切附近での現場検証 1/4)

十三時三十分より、津田沼電車区踏切り附近を中心に、動労千葉顧問弁護団を先頭に、西森法対部長、不当起訴されている三名の仲間、津田沼支部組合員を含め、裁判官、検事、船橋警察のデカを相手に、デッチ上げを全面的にあばくために、終始怒りの決意を胸に秘めて闘い抜いた。

例え、裁判所に証拠として検察側が提出している、「暴力があつた」と主張する現場から踏切り南端までの「見取り図」が、まったくでたらめであつたことである。

このように、でたらめな事実が一一つ暴露されていくたびに、検事の顔は蒼くなり、うろたえ、「起訴状」の作文を、あたかも当時自分が現場にいたかのように作りかえることに究々としたのである。すでにわれわれの勝利は明白である。わわれわれは、今後の裁判闘争過程で、敵権力のデッチ上げ性を一つ一つ暴きだし、公判闘争の勝利をかちとるため闘わねばならない。次回の十二月十日の公判で、検察側証人尋問が開始される。ここに、デッチ上げの張本人斎藤吉司が出廷する。斎藤吉司のこの間の犯罪性をことごとくあばきだし、粉碎するために決起しよう。

嶋田らが権力と完全に一体となり、自作自演でデッチ上げたがゆえに、「起訴状」の作文と現場見取図なるものが、あまりにもでたらめであることが、この現場検証の結果あきらかになつたのである。

このように、でたらめな事実が一一つ暴露されていくたびに、検事の顔は蒼くなり、うろたえ、「起訴状」の作文を、あたかも当時自分が現場にいたかのように作りかえることに究々としたのである。すでにわれわれの勝利は明白である。わわれわれは、今後の裁判闘争過程で、敵権力のデッチ上げ性を一つ一つ暴きだし、公判闘争の勝利をか

ちとるため闘わねばならない。次回の十二月十日の公判で、検察側証人尋問が開始される。ここに、デッチ上げの張本人斎藤吉司が出廷する。斎藤吉司のこの間の犯罪性をことごとくあばきだし、粉碎するために決起しよう。

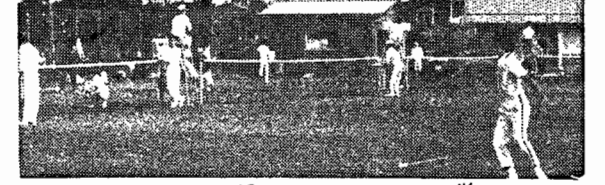
★二回公判  
12月10日 13時千葉地裁

サークル協主催オ三回テニス大会は、十一月十九日、白子サニーコートで開催され、九月六日が雨で順延になっていた個人戦の熱戦が再開された。

試合は、秋晴れの下各支部から六十五名が参加し、大岩スポーツ連盟会長の開会宣言、本部代表水野副委員長挨拶をうけ、直ち開始された。

試合は無差別にA、B、C、D、E、F、Gに分けてリーグ戦を行い、各チームがAグループに、三位以下

### テニス大会 - 個人戦 - 65名参加し熱戦展開



のチームがBグループで決勝トーナメントを行った。

各コートでは各支部の代表選手の白熱した好試合が展開され、緊迫したなかでコミカルなプレーも飛び出すなど、和気あいのうちに全試合を終了した。

★Aクラス  
優勝 小島進一 橋勇(津田沼)  
準優勝 茅野徹・武井明道(新小岩)  
三位 小沢天任・高橋志男(千葉戦)

★Bクラス  
優勝 米元和雄・沢秀治(勝浦)  
準優勝 小島鎮雄・小野泰治(千葉戦)  
三位 白井敏夫・奈良勝秀夫(千葉戦)

★敢闘賞 森下薫(豊後)  
西明敏(新小岩) 重見敏夫(本部) 飯田正石  
今田忍(千葉戦) 佐藤敏一(佐藤正義勝浦)  
中鉢幸治 高木伴三(大関弘明(武田))